

事務事業 No./名称	■サービス部門 市民-16 □支援部門		観光施設整備事業				
主管課	観光課	関連課					
分野名	観光						
目標 (目標値)	観光振興に関する観光客及び市民の満足度を高める。平成22年度までに観光客80%、市民90%が目標数値。入込観光客数を現状値(17年の1840万人)以上とする。						
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考		
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	・各年4月1日 (住民基本台帳)		
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯			
	観光客数	19,486,481人	18,833,713人	19,344,470人			
運営資源状況	決算値(千円)	76,841	46,526	103,657			
	(国・県)	10,612	4,828	20,000			
	(負担金等)						
	(一般財源)	66,229	41,698	83,657			
	人員配置数	1.45人	1.45人	1.45人			
	人件費(千円)	13,987	14,160	14,103			
	協働のパートナー						
事務事業運営経費	総事業費(千円)	90,828	60,686	117,760			
	市民1人当りの経費(円)	513	344	667			
	対象者1人当りの経費(円)	4.7	3.2	6.1			
	ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名	横浜	藤沢	箱根	京都	鎌倉
	観光客数	41,965,403	15,015,869	20,036,000	集計中	19,486,481	
	宿泊数	4,820,450	392,431	464,605		343,762	
	宿泊率	11%	3%	23%		2%	
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
公衆トイレの大規模改修済み箇所数	◎	目標値	2カ所	2カ所	2カ所	2カ所	2カ所
		実績値	1カ所	3カ所			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止
観光施設整備事業	76,841千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒	■A □B □C □D □E
	事業の概要	既存の観光案内板等の維持管理。公衆トイレの改築工事や修繕を行い清潔で安全なトイレの提供に努めた。ハイキングコースの清掃及び安全確保。		
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			
		①効率性 ②妥当性 ③有効性 ④公平性	⇒	□A □B □C □D □E
	事業の概要			

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	公衆トイレの補完的な取り組みである協力店を充実させる方法の検討が必要。トイレについては順次計画的に建て替えを進めているが、老朽化したトイレに対する苦情はある。			
課題解決のための取組	寿福寺公衆トイレの改修を行った。			
未解決の課題	協働型トイレ事業協力金の実績がないなど、ソフト的な対応による公衆トイレの充実が課題である。			
今後の方針	世界遺産登録実現による来訪客の増大を見据え、世界遺産のコアになる場所のトイレについては前倒しで改修していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒	A	※ □事業完了 課長名 観光課長 服部 計利

